

ふれあいの里 利用者アンケート結果について

* アンケート調査

■対象者

ふれあいの里利用登録者数 1,947件

■調査期間

令和2年（2020年）11月2日から12月15日まで

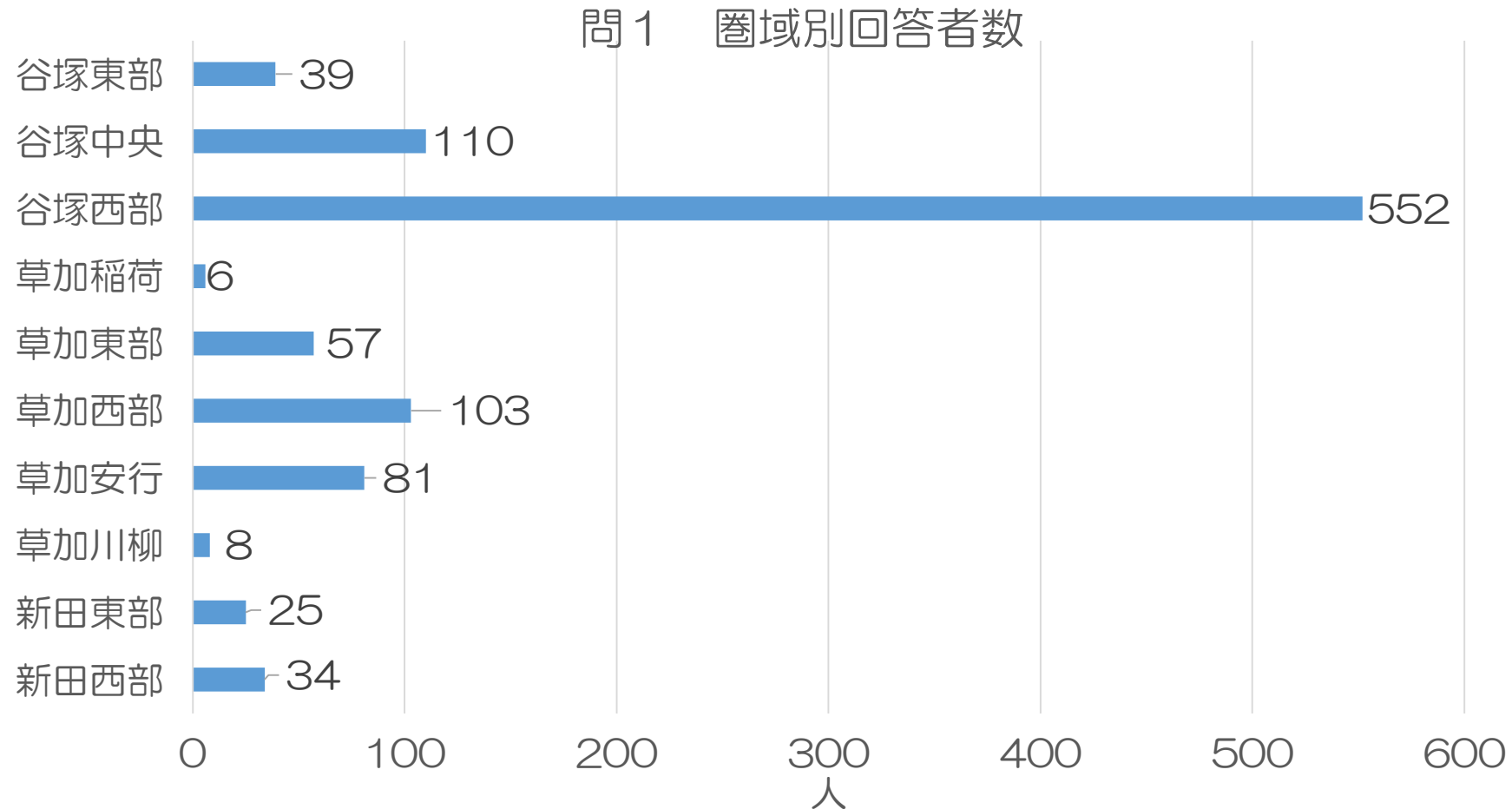
■調査方法

郵送によるアンケート調査

■回答数

1,088件 （回答率 55.9 %）

問1 圏域別回答者数

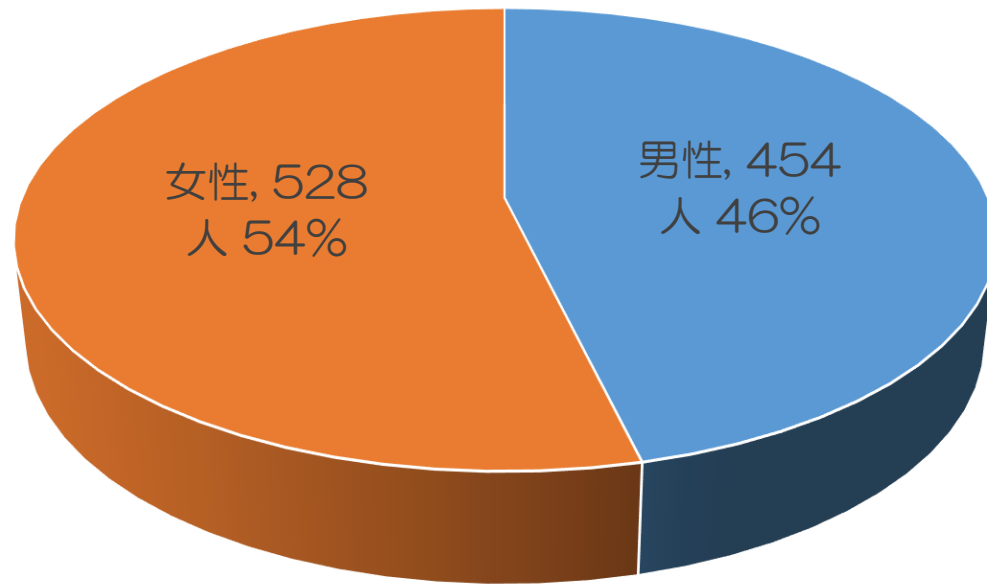


圏域別回答者数は、谷塚西部圏域が552人と最も多く、54.4%となっています。次いで、谷塚中央圏域が110人、谷塚西部圏域が103人となっています。

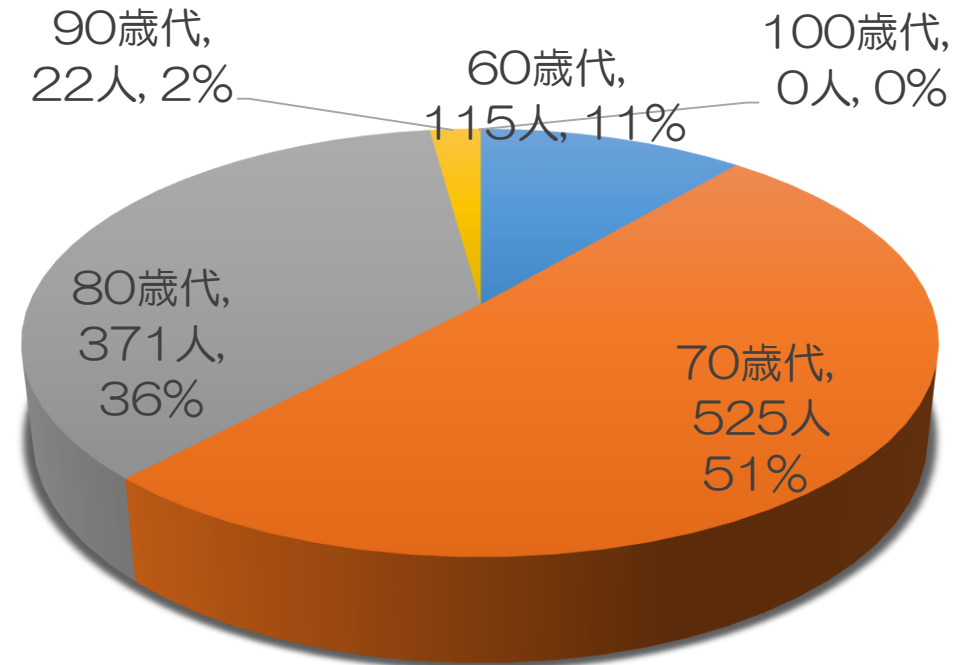
町名別では、新里町が191人と最も多く、次いで、谷塚町が110人、柳島町が70人、両新田東町が68人、遊馬町が64人、谷塚上町が64人となっており、利用者の多くがふれあいの里の近隣にお住まいの方であることがわかります。

問2 男女別内訳と年代別内訳

問2 男女別内訳



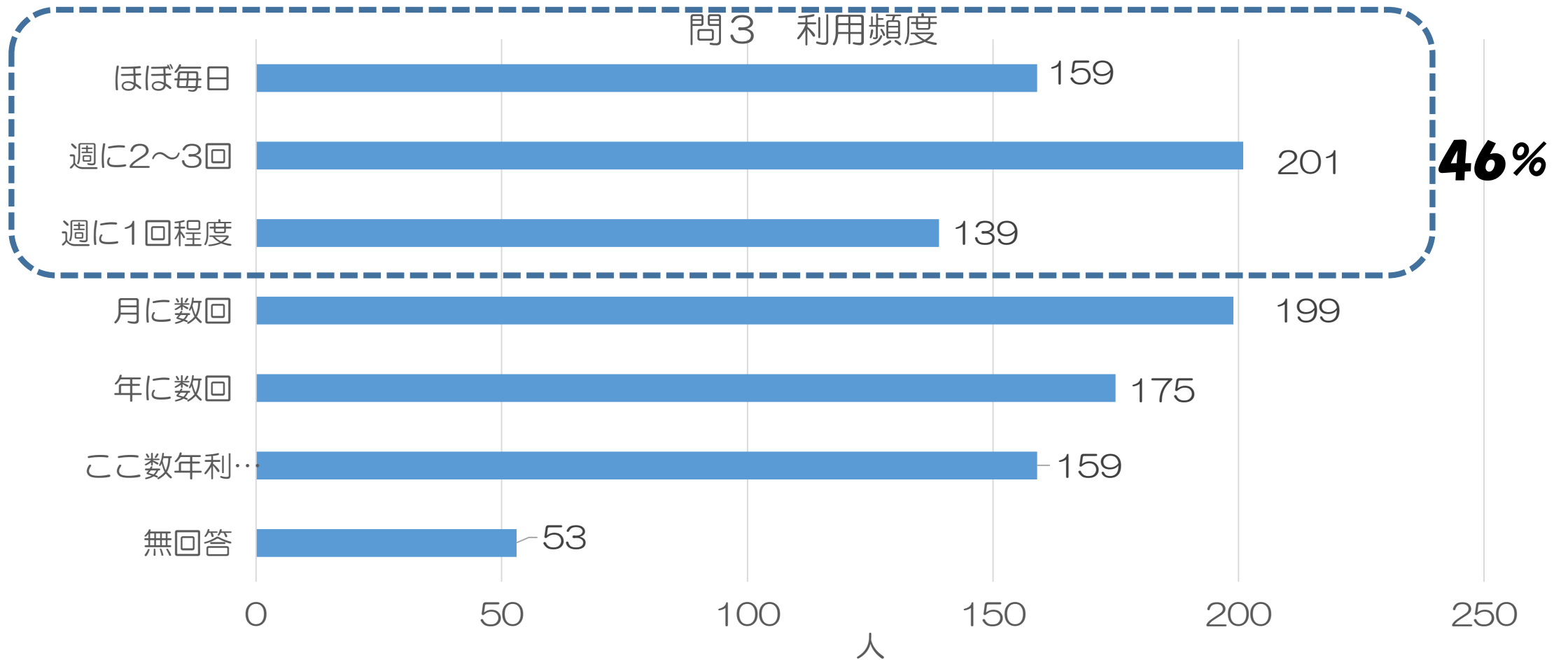
問2 年齢別内訳



男女別内訳では、女性が54%、男性が46%となっています。

また、年齢別では、70歳代が最も多く51%、次いで80歳代が36%、60歳代が11%となっています。

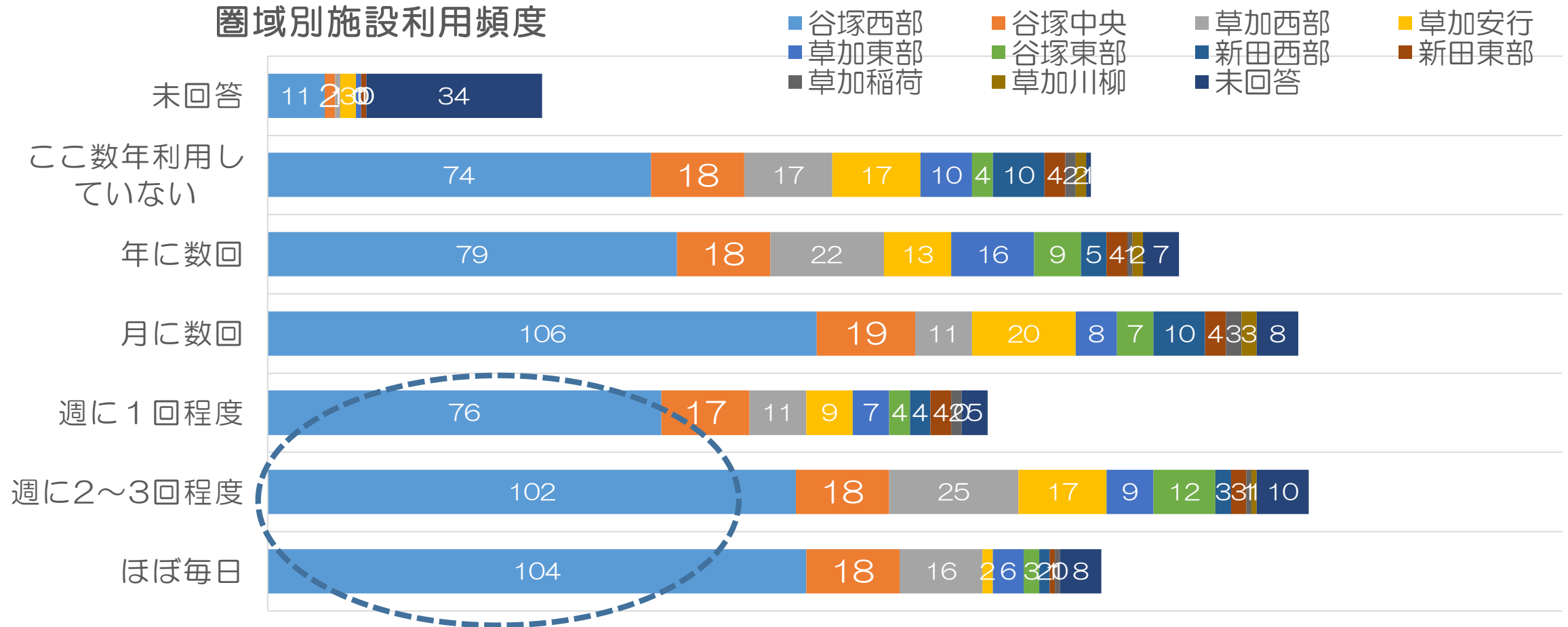
問3 施設利用頻度



施設の利用頻度は、週に2~3回が最も多く201人、次いで月に数回が199人、ほぼ毎日が150人となります。

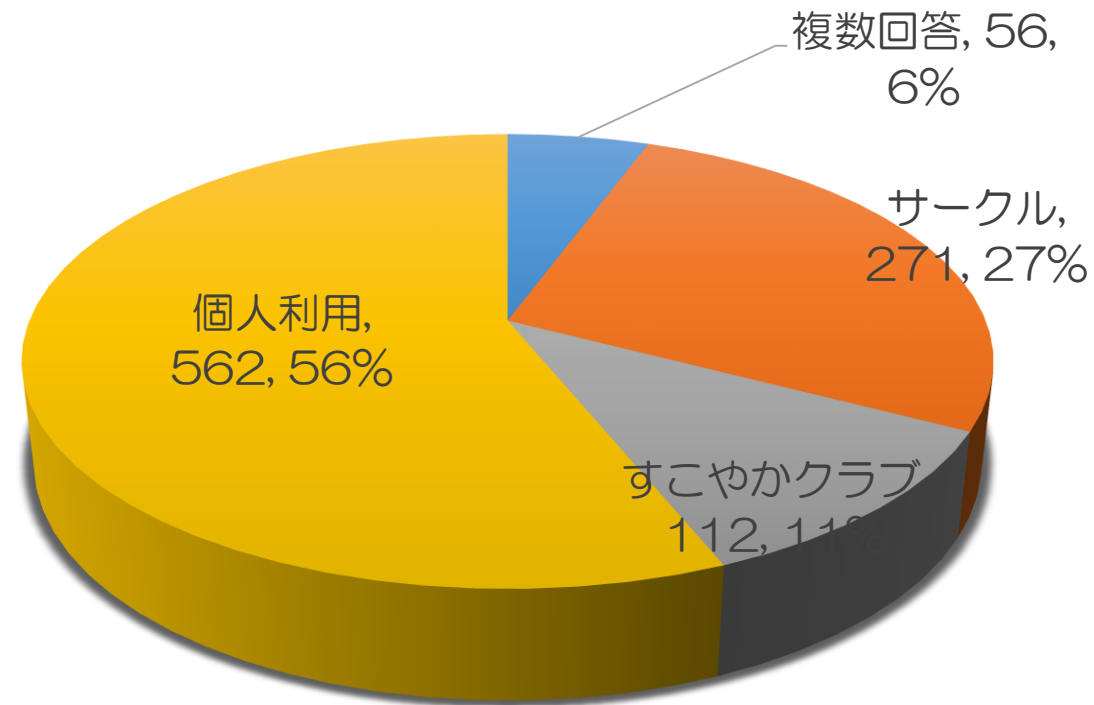
また、週に1回以上の利用者は、499人で、46%となっています。

問3 圏域別施設利用頻度



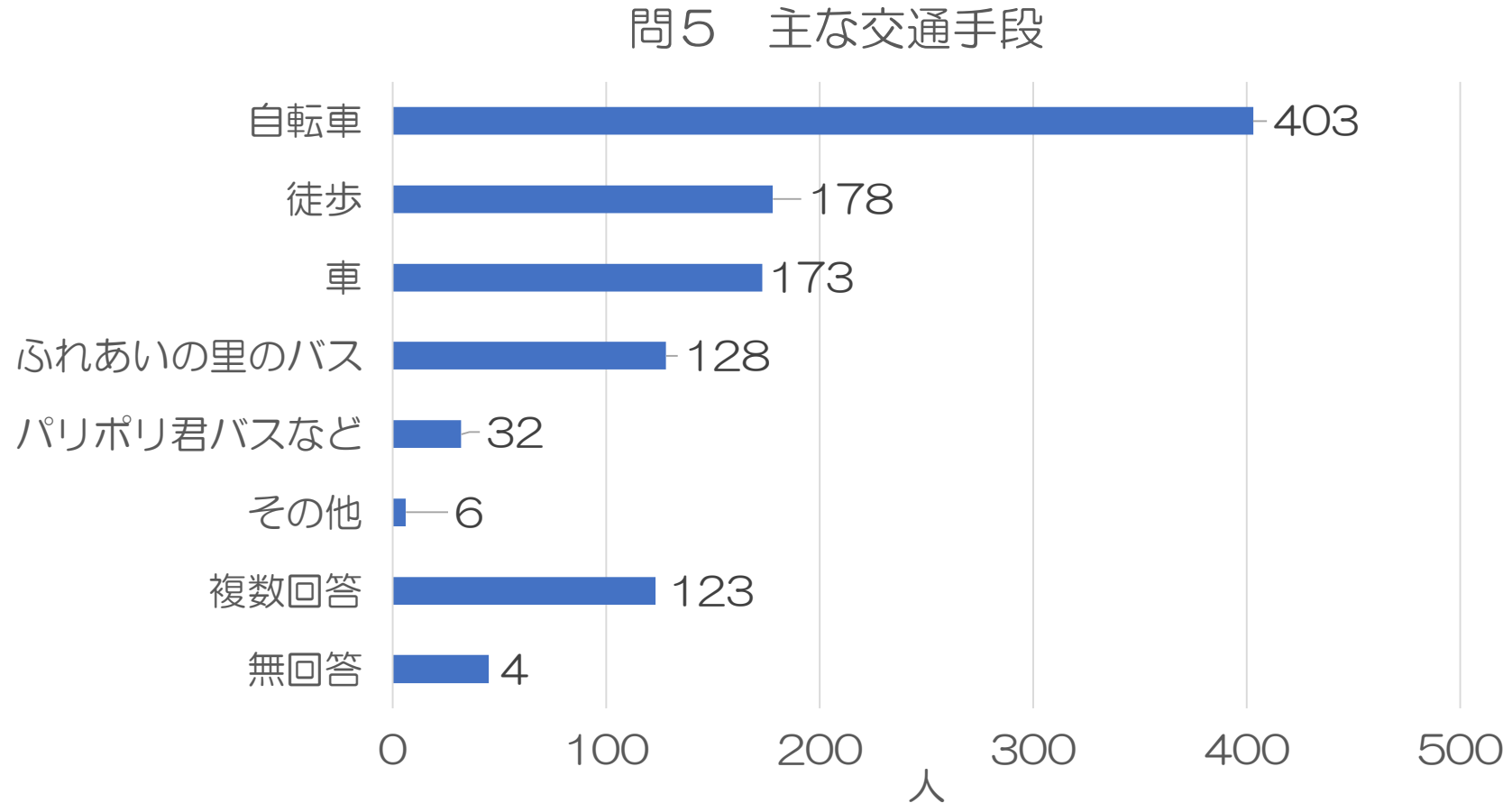
施設の利用頻度の圏域別内訳については、週1回以上利用していると答えた方の半数以上が谷塚西部圏域であることがわかりました。

問4 利用方法



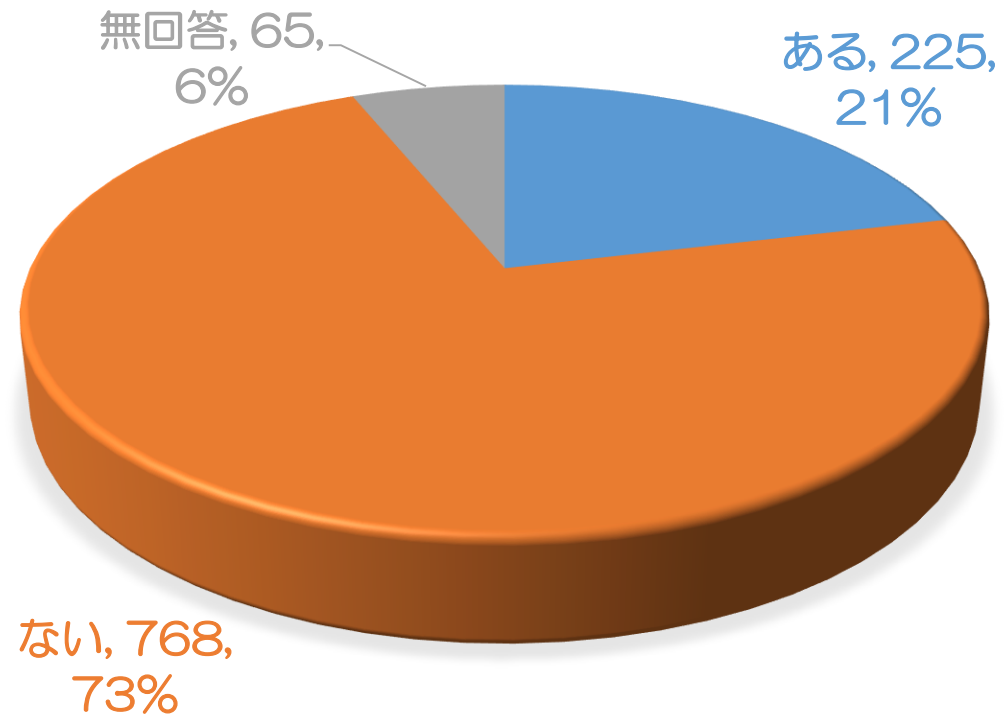
主な利用方法は、個人利用が56%と最も多く、次いでサークルが27%、すこやかクラブが11%となっています。

問5 主な交通手段



主な交通手段は、自転車が最も多く403人、次いで徒歩が178人、車が173人となっています。ふれあいの里のバスを主な交通手段としている方は、128人で全体の11.8%となっています。

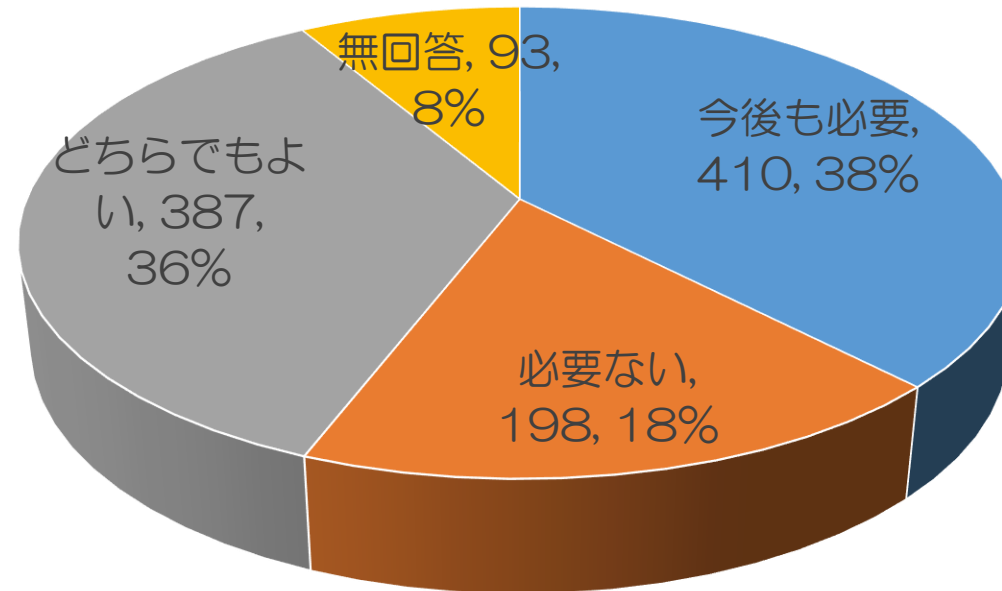
問6 ふれあいの里のバス 利用の有無



ふれあいの里のバスの利用の有無については、ないが73%、あるが21%となっており7割以上が利用していないことがわかりました。

問7 ふれあいの里のバスの必要性

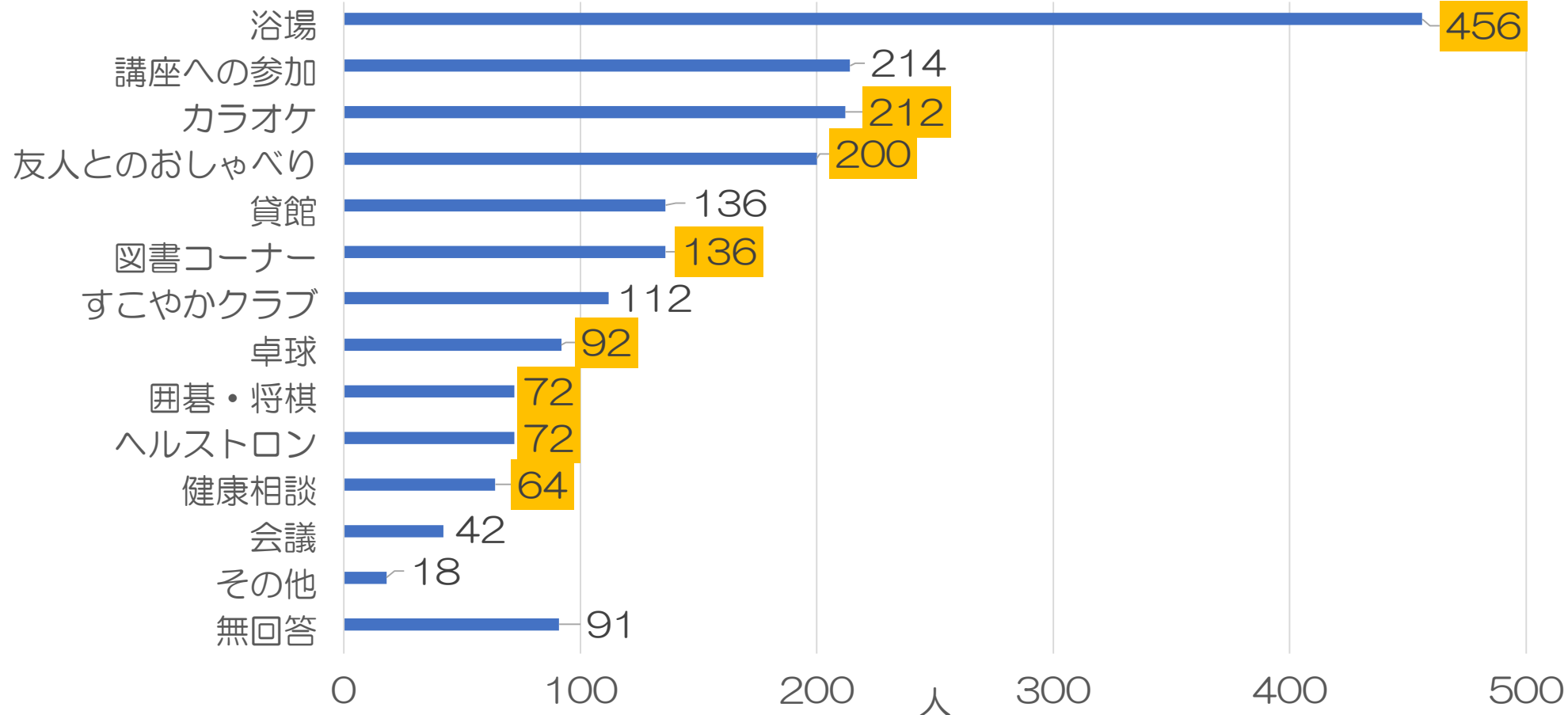
問7 ふれあいの里のバスの必要性



ふれあいの里のバスの必要性については、今後も必要が38%、必要ないが18%、どちらでもよいが36%となっており、半数以上が必ずれあいの里のバスについては必要ないもしくはどちらでもよいと思っているという結果となっています。

問8 利用目的

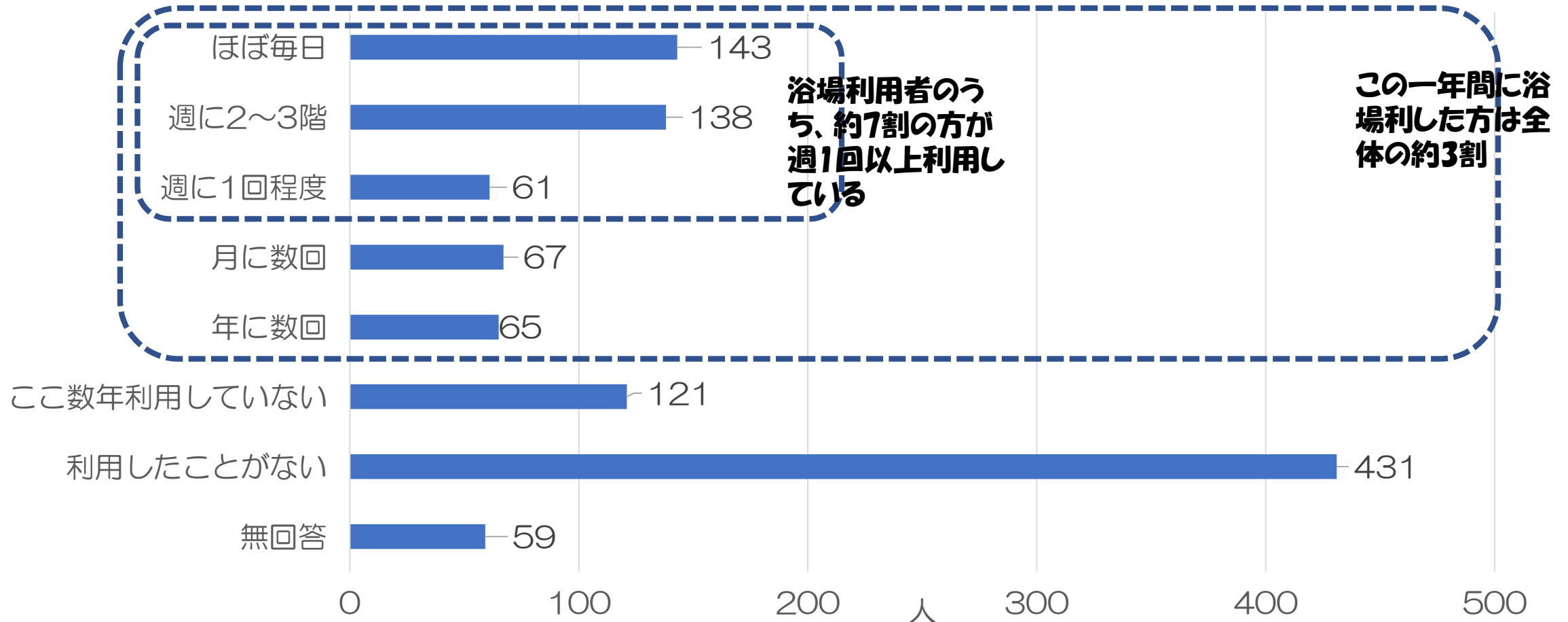
問8 利用目的（複数回答）



施設の利用目的については、浴場が456人と最も多く、次いで講座への参加が214人、カラオケが212人となっています。また、個人利用としては、浴場、カラオケ、友人とのおしゃべりが多い傾向にあります。

問9 浴場の利用頻度

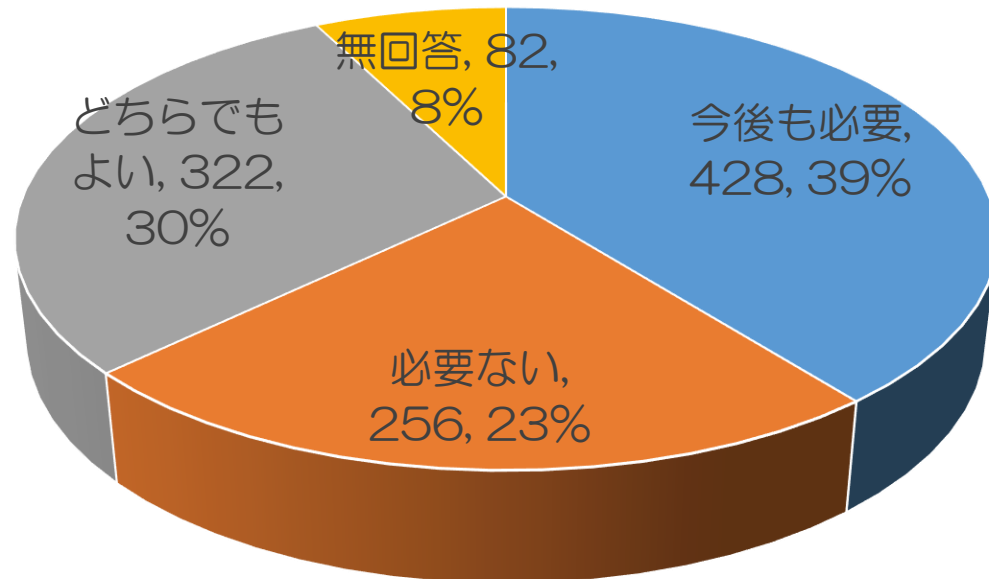
問9 浴場の利用頻度



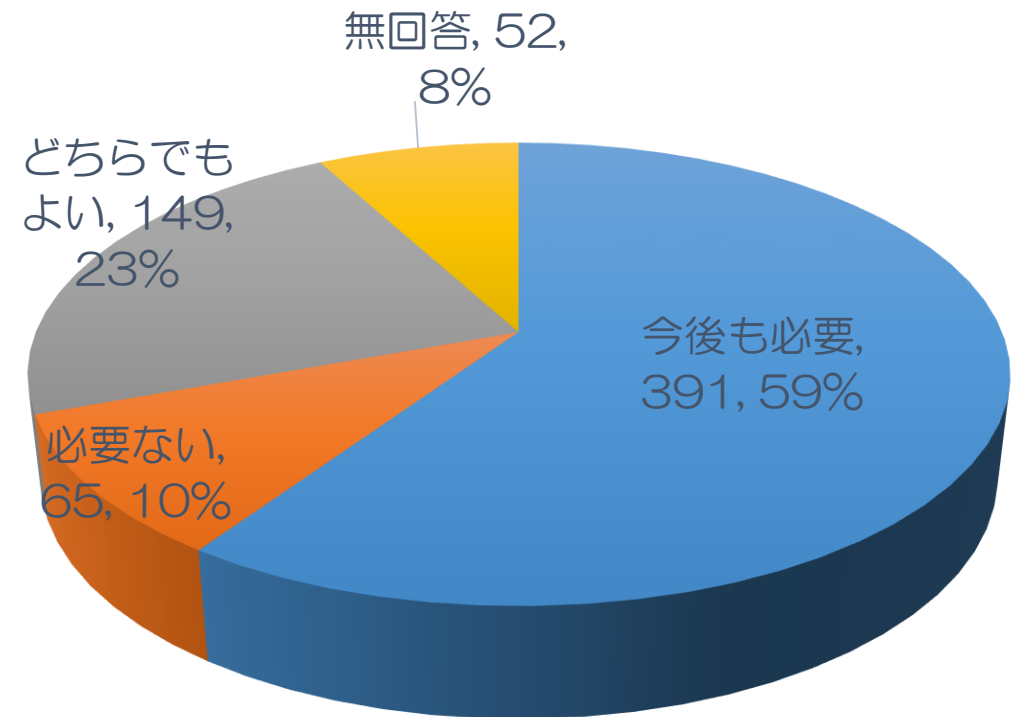
浴場の利用頻度については、ここ1年間の間に浴場を利用した方は、474人で全体の31.5%となっており、そのうち、ほぼ毎日が143人、週に2~3回が138人、週に1回程度が61人となっています。この一年間の浴場利用者のうち週1回以上浴場を利用している人は342人となっており7割以上を占めています。

問10 浴場の必要性

問10 浴場の必要性(全回答者)



問10 浴場の必要性(浴場利用者)

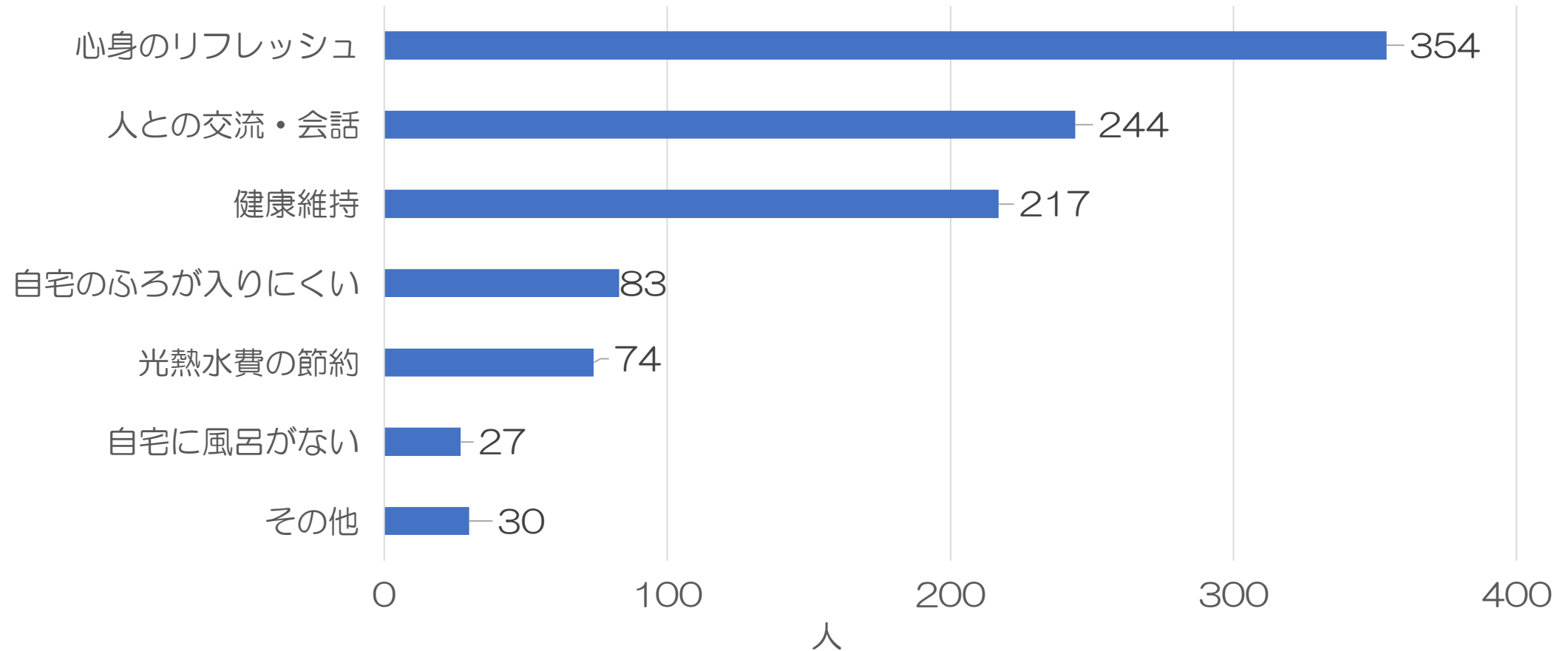


浴場の必要性については、全回答者で見ると、今後も必要が39%、必要ないが23%、どちらでもよいが30%となっており、半数以上が必要ないもしくはどちらでもよいと答えています。

また、浴場を利用したことのある方についてみると、今後も必要が59%、必要ないが10%、どちらでもよいが23%となっています。浴場利用者は引き続き浴場を必要と思う人が半数以上いることがわかります。しかしながら、浴場を利用しているにもかかわらず、約3割の方は必要ないもしくはどちらでもよいと答えています。

問11 浴場の利用目的

11 浴場の利用目的 (複数回答)

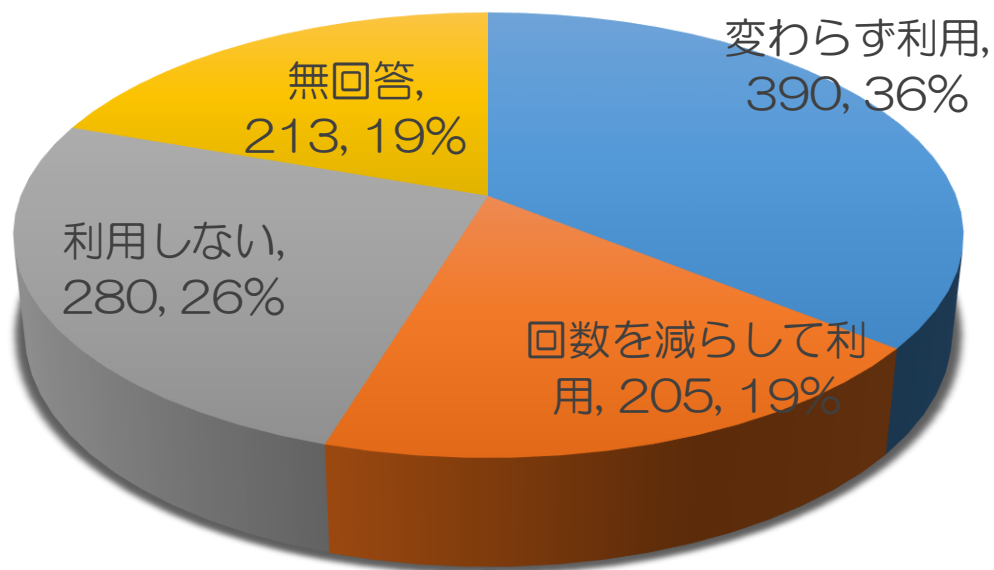


浴場の利用目的については、心身のリフレッシュが最も多く354人、次いで、人との交流・会話が244人、健康維持が217人となっています。

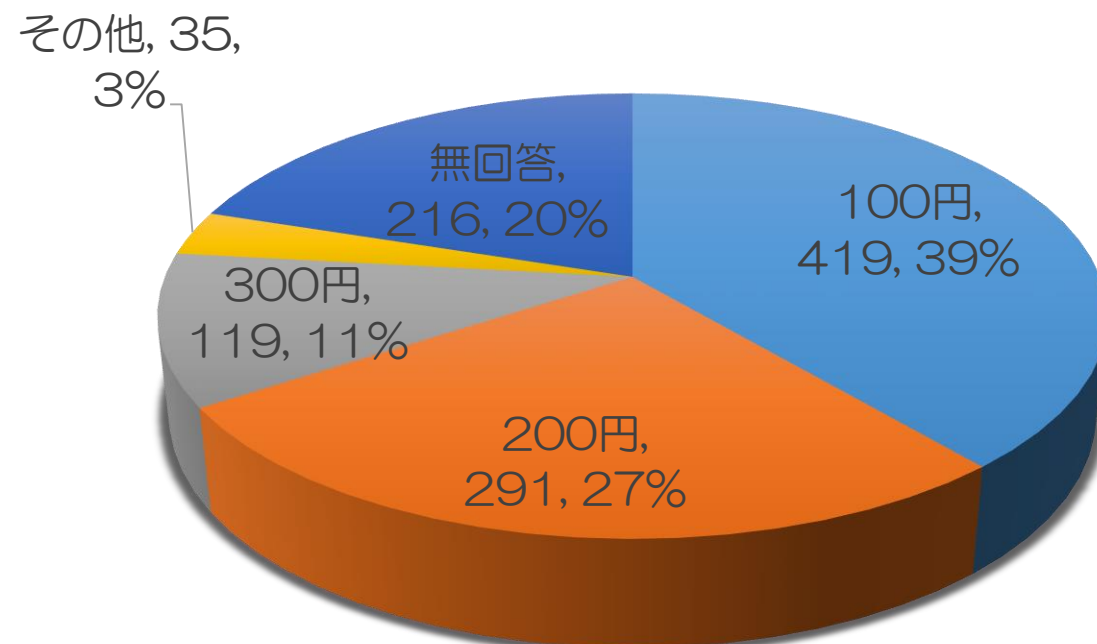
その他の意見の中には、独居のため家の風呂では不安という声が挙がっています。

問12 有料制になった場合の利用と適正だと思う利用料

問12 有料になっても利用するか



問12 適正だと思う利用料金

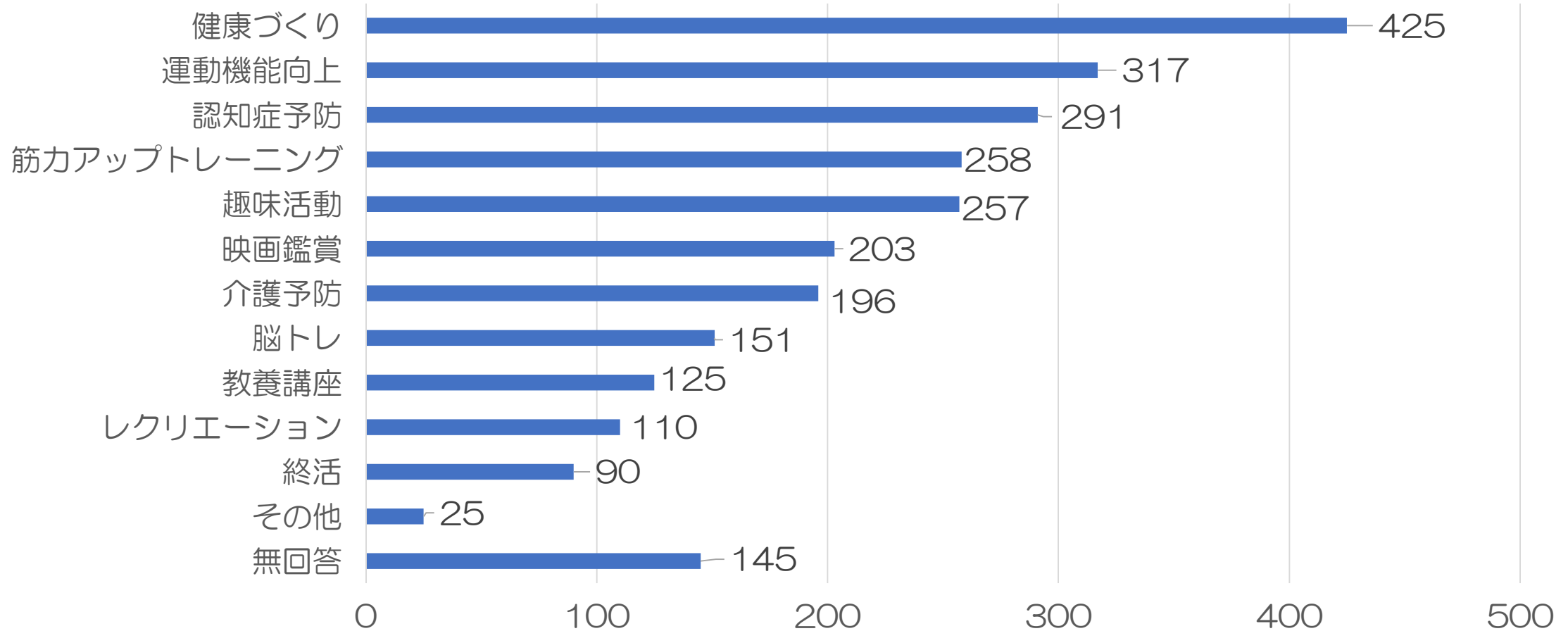


有料制になった場合の利用については、変わらず利用が36%、回数を減らして利用が19%、利用しないが26%となっています。半数以上が有料になっても利用するという回答になっています。

また、適正だと思う利用料金については、100円が最も多く419人、次いで、200円が291人、300円が119人となっており、100円から200円と答えた方が8割以上となっています。

問13 今後取り組んでほしい事業

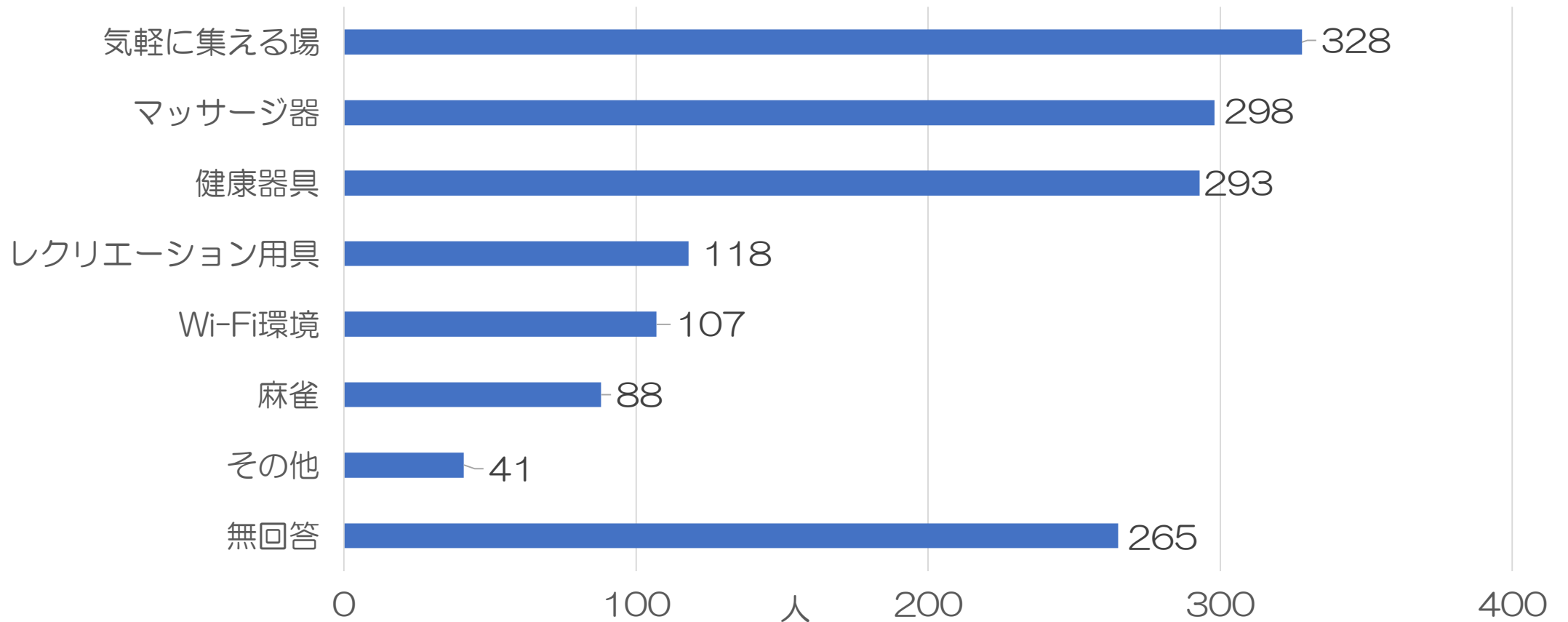
問13 今後取り組んでほしい事業 複数回答



今後取り組んでほしい事業については、健康づくりが425人で最も多く、次いで運動機能向上が317人、認知症予防が291人となっており、健康づくりや介護予防の事業を求める声が多いことがわかります。

問14 設置してもらいたい設備・備品など

問14 ふれあいの里に設置してもらいたい設備等 (複数回答)



施設に設置してもらいたい設備・備品などについては、気軽に集える場（サロン）などが最も多く、次いでマッサージ器や健康器具となっています。

その他の意見の中には、食堂やコーヒーショップ、売店などほっと一息つけるような環境を求める声もありました。

- 施設の利用者の5割以上が谷塚西部圏域にお住まいの方であり、施設の近隣の方の利用が圧倒的に多い。
- 施設の利用方法は個別利用が多く、頻度は、週に1回以上利用される方の割合は約3割である。
- ふれあいの里の利用手段としてふれあいのバスの利用は14%で、ふれあいのバスを利用したことがない方の割合は7割以上である。
- 今後のバスの必要性については、必要と答えた方が半数以下である。
- 施設の利用目的のうち浴場利用は25%である
- 浴場を利用している方のうち、週1回以上利用されている方の割合は7割以上である。
- 今後の浴場の必要性については、必要ない、どちらでもよいとの回答が半数以上を占める
- 浴場を利用している方では、浴場の必要性があるとの回答が約6割を占める。
しかしながら、約3割の方は、必要ないもしくはどちらでもよいと回答している。
- 浴場の利用目的は、心身のリフレッシュや人との交流とする回答が半数以上を占める。
- 一方、浴場利用される方の中には独居等で自宅の風呂には入りにくい環境にある方も1割弱いる。
- 施設の利用料を徴収しても継続して利用するとの回答が半数以上である。
- 適切な利用料金は100円から200円との回答が8割を占める。
- 施設への希望としては、健康づくり、運動機能向上、認知症予防等との回答が多い。